

地域のたから東西線編

沿線ぶらり散歩



「江戸時代の寺町を訪ねる」

仙台市博物館 学芸普及室嘱託 三好俊文

第11回 宮城野通駅

仙台城下の東の寺町

宮城野通駅周辺は、近年著しく変化しています。かつての予備校は大学施設に変わり、駅を出れば家電量販店の真新しいビルなど、現代的な街が目に入ってきます。少し足をのばせば「アンパンマン」こともミュージアムも立地し、そのキャラクターは駅構内のタイルのモチーフにもなっています。

ですが、宮城野通駅の東に歩を進めると、そこには街の喧噪とはほど遠い、寺院が軒を連ねる地区が姿を現します。

現在、榴ヶ岡や新寺の住所を持つこの一帯は、江戸時代には仙台城下町の建設によって形成された寺町でした。伊達政宗の晩



孝勝寺に建つ釈迦堂

年、当時八塚と呼ばれていたこの地が、仙台城下の町人町などに建つ寺院の移転先とされました。城下東部には、すでに勾当台一帯にかけての場所に寺町が置かれていましたが、この先行して置かれていた寺町（元寺小路）に対して、八塚一帯が新寺小路と呼ばれるようになりました。

周辺に建つ多くの寺院は、開発の影響でその境内を狭め、墓地も多くが移転しました。しかし寺院の並びは、江戸時代の配置がほぼそのまま、いまに受け継がれています。ここは再開発が著しく進む場所でありながら、江戸時代の城下町の名残を色濃く残している地区なのです。

歴史的建造物の宝庫

江戸時代以来の寺町という歴史の古さに呼応するかのようには、ここには、江戸時代以来の建物を残す寺院が建っています。

その代表格が孝勝寺です。二代藩主忠宗の夫人・振姫（孝勝寺殿）が帰依した寺院で、振姫の母や振姫本人が葬られました。宮城野通駅を出て真っ直ぐに東へ向かうと、平成の建築物である五重塔を背景に、江戸時代に建てられた山門が姿をあらわします。

また境内に入ると、本堂の脇に、四代藩主綱村が生母三沢初子を弔うために建てた釈迦堂が、姿をとどめています。元禄八年



（二六九五）に榴ヶ岡に建てられ、昭和四八年（一九七三）に現在地に移築されました。

逆に孝勝寺から移築された建物もありま

す。現在、成覚寺の山門となっている門で、もともとは孝勝寺に営まれた三沢初子の霊屋の門でした。移築は明治時代になってからのこと

このほか、政宗が帰依した僧明慶の開創と伝える正楽寺には、享保五年（一七二〇）に再建された本堂と、寛保二年（一七四二）建てられた山門が、また、三代藩主綱宗の生母・得生院が葬られた善導寺には、享保年間（一七一六〜一七三五）の再建とされる門が、いまも残っています。このように、宮城野通駅周辺は江戸時代の古建築の宝庫でもあるのです。

宮城野通駅で地下鉄を下車したら、江戸時代の寺町にも足を運んでみてはいかがでしょうか。落ち着いた雰囲気のおかげで、分に古建築巡りを楽しめるはず

企画展 戦国の伊達・政宗の城・仙台の町

— 斎藤報恩会寄贈の名品

会期：11月11日(金)～12月27日(火)

【観覧料】 常設展示料金でご覧いただけます。

一般・大学生：460円、高校生：230円、小・中学生：110円

※30名以上の団体：一般・大学生360円、高校生180円、小・中学生90円

※その他各種割引があります。詳しくはお問い合わせください。

主催：仙台市博物館

後援：宮城県、宮城県教育委員会、河北新報社、毎日新聞仙台支局、朝日新聞仙台総局、読売新聞東北総局、産経新聞東北総局、日本経済新聞仙台支局、仙台リビング新聞社、NHK仙台放送局、TBC東北放送、仙台放送、ミヤギテレビ、KHB東北放送、エフエム仙台、ラジオ3FM76.2



斎藤報恩会寄贈資料

伊達政宗の時代から幕末まで仙台藩の歴史をたどる多数の古地図も展示！

仙台市指定文化財
奥州仙台城絵図 正保二年(1645)

仙台市博物館 SENDAI CITY MUSEUM

開館時間：午前9時～午後4時45分(最終入館午後4時15分) ●11月の休館日：毎週月曜日、11/4(金)、11/24(木)

TEL:022-225-3074

〒980-0862仙台市青葉区川内26番地(仙台城三の丸跡)

▶ツイッター @sendai_shihaku

仙台市博物館

検索